

令和3年度 学力向上指導改善プラン

三田市立狭間小学校長 佐野 秀樹

学校教育目標		豊かな心で、自ら考え行動できる子の育成	
推進主体		学力向上推進委員会 (校長、教頭並びに学校改革、教育計画、学校評価、研究推進、生徒指導、保幼・小・中連携の各担当)	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	<p>国語</p> <p>◇国語科だけではなく、様々な教科・領域における表現の場を経験させることにより、話す(表現すること)に慣れ、子どもたちの力の伸びを感じることができた。思考の深まりにもつながってきたと感じる。</p> <p>◆全体的に、語彙力が低い傾向にある。</p> <p>◆文字の情報を読み解くことが苦手なため、問われていることが分からず、意欲を持ってない児童が、一定数ある。</p> <p>◆書くことに関して、文章での表現の方法が分からず苦手に感じる児童がいる。</p> <p>算数</p> <p>◇◆授業や朝学習でのドリル練習、新学習システム教員との連携による継続的な取り組みから、基本的な計算技能は定着しつつあるが、学年によっては、四則計算が正確にできない児童が、2割程度いる。</p> <p>◆文章題などで、内容を読み取り、関係図や線分図で表すことが苦手な児童が多い。</p> <p>◆立式はできるが、その根拠を説明する力に課題がある。</p>	<p>4月</p> <p>学力向上に向けての重点的な目標</p> <p>成果となる目標</p> <p>(指標となる数値等)</p> <p>具体的な行動目標</p> <p>(成果目標達成のための具体的な手立て等)</p> <p>年度末評価</p> <p>(今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p> <p>評価</p>
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	◇日ごろからの継続的な取り組みが漢字や計算技能の向上につながっている。定期テスト等でも結果となって表れてきたと思われる。今年度もこの積み上げを継続するとともに、新学習指導要領に沿った学力の定着を図るように取り組む。	<p>A アクティブラーニングを意識した授業の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあて、学習の流れの提示により、ユニバーサルデザインの授業づくりを意識する。 ・めあてを意識した振り返りをさせる。 ・課題設定の工夫、効果的な言語活動、相互交流に重点をおいた授業展開をする。 ・授業形態の工夫をする。 ・主体的な学びに重点を置き、探究的な学びのプロセスを大切にする。 <p>・学習の流れの提示の仕方を校内で統一し、個々が何を、どの手順でどのように学ぶのか、めあて・見通しをもって粘り強く学べるようにする。</p> <p>・振り返りをおこなうことで、何ができるようになるのか、何ができるようになったのか、メタ認知できるようにする。</p> <p>・個人思考を深めるためには、ペアワーク、グループワークは欠かせない。多人数の学級でも多様な授業形態がとれるよう、ホワイトボードやタブレットの活用など、多様な学習方法も検証する。</p> <p>・「わかった」「おもしろい」と思えるような授業を展開する。</p>
	授業等からうかがえる状況(各教科)	◇授業の流れとして「めあて」 「振り返り」を意識して展開してきた。見通しをもって学ぶ姿勢が身についてきている。 <p>◇朝学習により、学習へのスムーズな流れが身につくようである。</p> <p>◆主体的に学習に取り組む子どもたちを目指し、授業改善を図る。</p>	<p>B 思考力・表現力の育成</p> <p>○基礎基本の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語領域、計算などの技能領域の力をつける。 ・四則計算が正確にできる児童の割合を、90%以上に上げる。 <p>○ノートづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや友だちの考えを記し、思考の流れを残すようにする。 ・図や表を用いながら、物事、数量の関係を捉えたり、表したりできるようにする。 ・めあてと振り返りを書き、自分について力を意識させる。 <p>○読む力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読表現を工夫することができる。 ・課題に沿って情報を取り出し、解釈することができる。 ・言葉に関心を持たせ、語彙力を高める。 <p>○根拠や理由に基づいて考える力の育成をはかるためのカリキュラムマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由や根拠を明らかにして、書いたり話したりすることができるようにする。 ・場に応じた表現の工夫をさせる。 ・友だちと共に考え学ぶことによって、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業の工夫をする。
学力向上に係る学習習慣・生活習慣	<p>◇◆昨年度当初の休校措置の際に、家庭学習の手引き「夢に向かって狭間っ子」を配布し、家庭学習の指標とした。計画的に活用を促すようにしていきたい。さらに効果的な活用方法を考えていきたい。家庭学習の充実が基礎基本の定着には不可欠であるので、今後も積極的に進めていく。</p> <p>◇どんな学び方が良いのか、具体的に示すために、月1回の「漢字ノートコンクール」、随時の「自分学習ノートコンクール」のコーナーを掲示板に設けた。その良さを示すことで、一人学びの手本にするとともに、学習意欲の向上につながった。</p> <p>◆学校評価アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着に関する項目で、保護者(67%)と児童(82.2%)の達成数値に開きがみられた。 ・読書に関する項目で、児童「本を読むことは好きですか」(73%)に対して、保護者「家で読書や読み聞かせを楽しんでいる」(51%)と、親子で読書に取り組む機会が持ちにくいことが課題である。 	<p>C 家庭学習の習慣の確立と充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引きの見直しを行う。手引きに基づき学級指導し、家庭へ配布、懇談で啓発する。 ・家庭学習が授業に活かされるような課題を工夫する。 ・学校教育評価アンケートの、「子ども自らが家庭学習に取り組む」の項目において、75%の達成を目指す。 <p>D 読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読むことを楽しむ児童の増加を目指す。 ・本を資料として活用できる(本の紹介、調べ学習など)児童の増加を目指す。 ・学校教育評価アンケートの、「家で読書や読み聞かせに取り組んでいる」の項目において、65%の達成を目指す。 	
校内研究・研修の状況	校内研究の状況	<p>◇目指す児童の姿を系統立てて明確化し、年間を通して指導することができた。</p> <p>◇研究授業では、研究課題を明らかにして事前・事後研修会を持ち、成果と課題を共有することができた。来年度は、学習評価につながる評価基準(長期的ルーブリック等)の作成を目指すことが共通理解できた。</p> <p>◇ホワイトボードで授業の流れを示し、めあてやふりかえり、次授業のめあての提示したことで、見通しをもって授業にのぞみ、学んだことを整理することができた。</p> <p>◆年度当初に一年間の研究の進め方を明確にし、系統立てたテーマを全職員で共通理解していく。</p>	<p>E 児童理解に基づいた指導体制の確立</p> <p>○主体的に楽しみながら外国語を学び合い、自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもを育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材に適した授業展開・指導法を通して、主体的に楽しみながら外国語を学び合う子どもを育成する。 ・自分の思いや考えを豊かに表現するための必要な手立てを、意図的計画的に講じる。 <p>○個に応じた支援を行う。</p> <p>○それぞれの教科や、教材の特性を踏まえた授業展開を通して、児童の総合的な力を育成する。</p>
	校内研修の状況	<p>◇年度初め・終わりの児童理解研修会を活用し、全職員が一人ひとりの児童について共通理解することができた。さらに、巡回相談や教育相談を積極的に活用し、深い児童理解につとめた。</p> <p>◆各教員の得意な教科や分野、領域、指導法を交流する場を、計画的に設定する。</p> <p>◇児童の取り組んだ成果物(作品やノート等)を掲示して可視化することにより、全ての児童が目指すものや姿勢が明確になり、教員の意識も高まった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が授業公開を実施する。 ・研究授業では、事前研修会を持ち、研究課題を明らかにし、ワークショップ型の事後研修会により成果と課題を共有する。 ・毎授業のふりかえりと次授業のめあての提示をする。 ・音声指導を3年生から取り入れ、音声と文字のつながり意識させ、英語スキルの定着をはかる。 ・自分の思いや考えを豊かに表現するために必要な手立てを、系統だてて実施する。 <p>・児童理解研修会を年度当初に行い、巡回相談と教育相談を積極的に活用する。</p> <p>・研修資料の共通理解と共有行動を図る。</p> <p>・研修を教育課題に応じて行うことで、専門性を高める。</p>
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	<p>◇コロナ禍の中で、保護者や地域の方に、ボランティアとして学習支援をしてもらう機会が設定できなかったが、図書ボランティアの図書室の環境整備、登下校の見守りなど、温かく見守っていただいた。</p> <p>◆昨年度は、学校地域運営協議会が、2回は紙上開催となり、具体的な意見交流を行うことができなかった。開催に向けて、時期等を検討していく。</p> <p>◆地域ボランティアと学校をつなぐ、コーディネーターを探す必要がある。</p>	<p>F 社会に開かれた教育課程を支える風土の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い分野で多くの学校支援ボランティアの活用を推進する。 <p>○地域ボランティアと連絡を密に取り、相互に効果が生まれる連携。</p> <p>○教師の専門性を生かして、教科担任制を推進していく。</p> <p>○小学校と中学校とで、連携を強化する。</p>
	小・中における教科連携等の状況	<p>◇コロナ禍の中で、保護者や地域の方に、ボランティアとして学習支援をしてもらう機会が設定できなかったが、図書ボランティアの図書室の環境整備、登下校の見守りなど、温かく見守っていただいた。</p> <p>◆昨年度は、学校地域運営協議会が、2回は紙上開催となり、具体的な意見交流を行うことができなかった。開催に向けて、時期等を検討していく。</p> <p>◆地域ボランティアと学校をつなぐ、コーディネーターを探す必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交換授業による教科担任制の授業を実施する。 ・中学校からの出前授業を実施し、円滑な小中接続に努める。 ・本校の研究授業や研修について、中学校にも案内し交流する。 ・生徒指導上の情報を共有し、連携を深める。 <p>・教科担任制の充実により、基礎学力の向上や中学校への円滑な移行を図る。</p> <p>・小中連携の強化(相互校の実情理解、児童会生徒会交流、生徒指導情報共有など)をする</p>